

かつて都があった

三雲・井原遺跡は、川原川と瑞梅寺川にはさまれた三角地にあります。規模は東西650m南北1200mにおよぶ、伊都国最大の集落だったんだ。伊都国王が住んでいた都だったんだ。

伊都国の都ってことは、倭国の都だったときもあるのね。さあ、どんな交流をしていたのか調べてみよう。



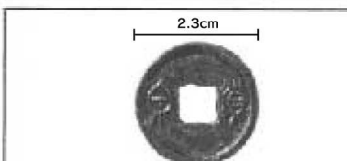
●ファイアンス玉(三雲・井原遺跡出土)
石英の粉末を焼いてつくったアクセサリ。地中海からはるばる伊都国にもたらされた。



●辰砂
すりつぶして赤い顔料の原料とする。中国では同じ重さの銀と取引された貴重な品。



海外との交流の証にもなった
交易品を見てみよう



●貨泉(上野子遺跡出土)
中国の貨幣。伊都国では青銅器の原料として輸入されたといわれているが、実際の交易にも用いられた可能性がある。

王都のにぎわい
三雲・井原遺跡ではファイアンス玉や辰砂など、他では見られない遺物が出土しているの。ここが交流の中心地だったことがわかるね。
王都には各地から沢山の人たちが集まってにぎわっていたんだろね。

わたし 私たちの住む系島の昔の暮らしを知りたい

倭国

第8回 ●倭国の都
画・上角智子

中国との交易を独占した伊都国には、交易品などを求めて国内外から多くの人々が来てにぎわっていたんだって。



伊都国王を中心とする倭国は大きく成長を遂げていったんだね。



ねえ、お兄ちゃん
倭国って、どんな国だったか知ってる??
うね、調べてるんだけど。



倭国は伊都国を中心として発展した国だってとまで調べたのよ。その頃の伊都国は倭国の「都」として栄えていたともいわれているの。

へええー
僕も知らないよ
どこまで調べたの?
少し教えておくれよ。
僕も一緒に調べたいな。



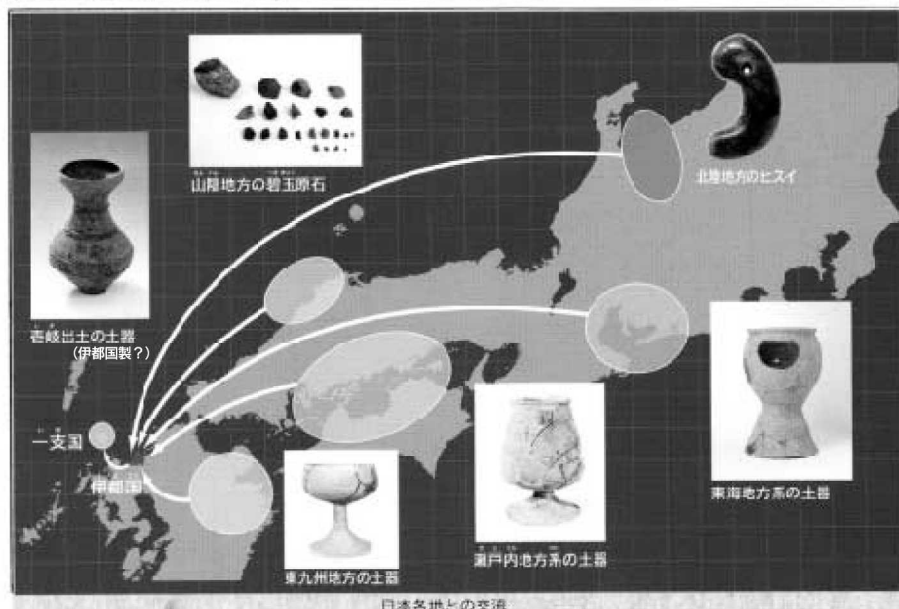
い と こく たいがいこうりゅう
伊都国の対外交流
にほん かくち
日本各地との交流

伊都国からは、九州内はもとより、日本各地で作られた土器が見つかるのよ。東九州地方や瀬戸内海地方の土器、さらに遠く東海地方の影響を受けた土器もあるのよ。

また、アクセサリーの材料の碧玉やヒスイなどは、伊都国ではとれないものの。これらは、他の地域との交易で手に入れたのよ。

碧玉は山陰地方から。ヒスイは北陸地方からもたらされたの。

瀬田頭給遺跡では船が出土していて、伊都国の人々が船を使って各地と交易していたことを物語っているのね。



きん りん くにぐに こう えき
近隣の国々との交易



ちか ば くにぐに りくろ すこ はな くに しま かいり い
近隣の国々は陸路で、少し離れた国や島へは海路で行
き来していたと考えられます。



そんな伊都国の繁栄をねたむ国々もあったみたい。なかには、伊都国を攻めようとして機会をねらっていた国もあったのよ。

倭国があまりにも急速に大きくなったために、国の内部が十分にまとまりきれなかったのかもしれないわね。